

に Al, Cu, ラワン, ガラス, アクリル, 沓紙, 活性炭沓紙, 布の試料を入院期間中設置した. そして, ガス状 ^{131}I がどの程度沈着するか測定を行った. 活性炭沓紙 1 ケに 0.24 nCi 沈着したものが一番多く, 他の試料はいずれも 0.1 nCi 前後であった.

4. 甲状腺腫の ^{67}Ga -citrate スキャンとその臨床評価

○多田 明 立野 育郎
(国立金沢病院・放)
杉原 政美 窪田 昭男
(金大・核医学)

甲状腺癌 23 例を含む結節性甲状腺腫 30 例について, 良性悪性の鑑別診断を目的として ^{67}Ga スキャンを行った. ^{67}Ga -citrate 2 mCi 静注後 48 時間で $1000\text{ hole collimator}$ 装着 γ -camera を用い $190\text{ keV} \pm 35\%$ でシンチフォトを作製した.

〈結果〉 30 例中 10 例に陽性像を得た. その内訳は, 甲状腺癌 23 例中 8 例, (未分化癌 5/5, 乳頭腺癌 2/14, 沓胞腺癌 1/4) 慢性甲状腺炎 1/3, 悪急性甲状腺炎 1/1 であった.

悪性と良性の陽性率は, $8/23$ と $2/7$ で同じ程度であった. 甲状腺癌の中では未分化癌全例に陽性像を得, 集積程度も著明であった.

未分化癌で Linac 照射 7000 rad 後に ^{67}Ga スキャンが陰性化した症例を示す.

^{67}Ga スキャンは, 甲状腺腫の良性悪性の鑑別診断には応用価値は低いと言えよう. しかし, 未分化癌の早期発見と, その治療効果の判定には有意義であろう.

5. 甲状腺 RI-Angiography の検討

○多田 明 立野 育郎
(国立金沢病院・放)

針生検, 手術所見にて確診が得られている 26 名の結節性甲状腺腫を有する患者に対して $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -

O_4^- による甲状腺 RI-Angiography を行った. 全例通常のスキャンで cold nodule であった.

〈方法〉ピンホールコリメーターを用い, $^{99\text{m}}\text{Tc}$ - O_4^- $10\text{--}15\text{ mCi}$ を結節のある反対側の肘静脈よりボラス注入し, 5 秒後よりボラロイドカメラにて, 5 秒間ずつ 35 秒まで撮像した. さらに 5 分後と 20 分後にもスキャンした.

〈結果〉正常甲状腺部に比べて明らかな hyper-vascularity を示したのは 15 例であり, 甲状腺癌 18 例中 9 例, 甲状腺腫 6 例中 5 例, 慢性甲状腺炎 2 例中 1 例であった.

反対に hyporvascularity を示したのは 3 例で, 1 例は Linac 照射後の未分化癌, 1 例は cyst であった.

甲状腺 RI-Angiography は, 結節性甲状腺腫の良性, 悪性の鑑別には価値がない. 甲状腺癌よりも腺腫に高率に hypervascularity を認めた.

6. デキストラン炭末法における上清測定と沈澱測定との検討

○稲垣 忠一 大沢 保
岡本 一也 藤井 忠一
尾藤美穂子 矢野 正幸
(浜松医療センター)

ガストリン及び, T-3 RIA 市販キット (デキストラン炭末法) の B.F. 分離で, 上清の一定量 (1 ml) を用いて計測する方法と, 沈澱物を計測する方法との比較検討を行った.

結果: 上清法と沈澱法との間に

ガストリンは相関係数 $r=0.979$, T-3 RIA では相関係数 $r=0.967$, となり, 両キット共, 信頼限界 95% のも検定で統計的有意差を認めなかった. しかし 30 例中 1 例が相対的に大きなバラツキを示した.

考案: 沈澱の完全な上清を用いれば, 上清を除く時の沈澱の流出による誤差が無くなり, 検査の精確度につながる. 今回の誤差の原因は, 試験管ラック一括遠心器使用により, 一部の試験管で管